

ホーム名： グループホーム白馬（ユニット ゆとり）					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	周辺症状に対してのケアはもちろん、加齢と共に高まる医療ニーズにも対応し、住み慣れた地域・ホームでの生活が維持されることを理念で謳っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「地域ケア会議」に参加しているほか、地域の民生委員や自治会長にはホームでの会議に参加いただいている また自治会に加入することで、高齢者向けの地域行事にも招かれるようになった		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の依頼による認知症サポーター養成講座へのスタッフ派遣や、隣接している診療所から在宅での認知症介護について、家族の相談に応じている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内のヒヤリハットと事象などについて、特に診療所看護師からは毎回意見が出され、これまで多かった「服薬にかかる事象」は大きく減っており、会議での意見を日々の業務にいかしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員事業を通して、スタッフには届いていない利用者の要望や、他施設と比べて改善すべき点（同じ相談員が毎月訪問してくることにより）ホームの雰囲気の変化など日常的に助言を受けている また運営推進会議の事故事象報告においても、助言を受けている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	漫然とベッド柵などで囲ってしまうのではなく、必要な時期・期間・他の替わるべき方法の検討、を行ったうえで、家族との話し合いを行っている 最近ではバルン留置の入居者に対して、自己抜去の危険性があり「つなぎ」の着用を行ったが、当初は「夜間のみ」の使用とした		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日中は複数の勤務であるが、夜勤帯は一人勤務となるため、平屋建ての利点を活かし2名で連携して業務にあたることもあり、精神的な負担の軽減に努めている 法律については会議の折に学習の機会を設けた		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>かつて各々の制度を利用されていた利用者もいて、後見人や支援事業担当者（社協）の方の役割について学んだ。ご家族が遠方など日常的な支援が困難な利用者に対しても、制度利用など喚起をしたいが、地元社協では日常生活自立支援事業は新規受入が困難な状況が続いている</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>介護報酬や制度改正の度、重要事項説明書などの変更が生じるため、文書での説明はもちろん、電話来所での相談に応じ、ご家族の不安疑問の解消に努めている</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個々の利用者が「要望」を言われることは少ないが、市の介護相談員は毎月6～8名の入所者と話し合わせ、聞かれたことはスタッフに伝えられている。またご家族には投書箱や外部への苦情申立の方法などを、入所時に説明を行っている</p>		
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員会議の前にスタッフから議題や提案を受付、自発的な意見の集約に努めている</p>		
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>利用者の重度化に伴い身体的な介護が増えている。クリニック職員による入浴介助・受診時送迎の支援を受けて職員負担を軽減に努めている。が、今年度は職員の退職者に対して補充が遅くなり、夜勤回数が増えるなど職員への負担が増し、有給休暇の消化はできていない</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のシフト勤務で手一杯となり、個々の介護職員が外部研修に行く機会がなかった</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>計画作成担当者が地域の事業者との窓口になり、地域の勉強会などに参加している</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用希望の相談があつてから入居までに面接を行い、本人・家族からの情報収集を行い、スタッフで共有し、入居後のケアにつなげている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面接により家族本人のニーズを把握し、入居後も面会など精神的な支援の関係を共に作るように努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所前の面接で本人のニーズを見極め、受診や食事など個々に応じたサービスを検討し対応に努めている</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>洗濯物を干したりたむ、食器拭きなど能力によって「役割」を分担するように努めているが、入所の長期化や高齢化に伴い全面的な介助を要する方が増えている</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>衣服の入れ替えを必ず家族にお願いすると共に、外出外泊、日常的な面会など家族の精神的支援は必要であるため、役割を果たしてもらっている。化粧品や肌着など本人の細かな買物もホームではせず、家族にお願いすることで「面会（来所）」を促している</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域密着型となりホーム近辺の方の入所が多くなった。入所者の中には、近所、同じ宗教などのつながりで、「家族」以上に面会や外出の付添に来られる方もおられ、入所前の関係を維持してもらおうようお願いをしている方もおられる</p>		
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>大正生まれの方が大半となり、長期の入所で「難聴」や「身体的症状」も進み、利用者間のコミュニケーションは、ほとんど取れていない。入所者間には「相性」があり、気持ちよく生活していただけるように、入所者同士の関係に注意している</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>骨折や手術目的の入院による退去後も介護やサービスの利用について相談に来られれば支援し、また再入所の事例もある一方同居人の意思で無理やり退所した事例には、虐待予防のため、地域包括や居宅ケアマネと連携をとったものもある</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に本人の思いを、本人や家族から聞き取りをしているが、長い入所期間中に、コミュニケーションもとりにづらくなっているため、本人の様子などから意向を把握するように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前の面接ではご家族や本人から生活歴や直前までの経過を聞き取っている 特に自宅からの入所は食事・睡眠・趣味など本人の生活パターンの把握に努めて、スタッフでの情報の共有を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に本人や家族から聞き取り、スタッフでの情報共有を行っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の利用者にはスタッフの担当を決め、日常の連絡以外に、要望などを聞き取ることもある聞き取った声は直ちに管理者に伝えられ、必要に応じて介護計画の見直しや主治医に伝えられている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェックや食事・排泄など利用者の健康管理に関することはもちろん、利用者間の「やりとり」や周辺症状など詳細な記述に努めている とりわけ夜間（夜勤帯）は1時間おきに状態を記録し、睡眠や排泄パターンを理解し翌日のケアや介護計画に役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内の介護に止まらず、単身者や家族が遠方の方が日用品の買物を要する時、あるいは役所での手続きを要するときなど、本人の要望にあったものとなるように取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の方などの支援があつて入居された方については、引き続き精神的な支援をお願いしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的にはホームの協力医療機関で受診している 必要に応じてかかりつけ医から病状説明を受けてもっている		

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>リハビリや処置、注射などほぼ毎日隣接している診療所に利用者を連れて行っていることで、診療所の医師・看護師・理学療法士などと日常の相談などができる関係になっている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>主治医となってもらっている隣接している有床診療所への入院が多いが、日常的に訪問診療などで主治医も個々の入所者のことをよく把握され、早期に退院できるように相談をしている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>食事のみこみが悪くなったり、水分摂取が困難になるなど、ホームや併設の診療所での対応が困難となり、他施設での対応となることは家族会あるいは個別に伝え、近隣の療養型病院・施設へ紹介している</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>発熱に対しては対応をマニュアル化している その他鼻出血・嘔吐などの突発的な症状の際は、隣接している有床診療所の当直医・看護師の指示を受ける</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震・火災時は隣接している診療所の駐車場を避難場所に定め、避難誘導時の診療所スタッフの応援を受けることになっている</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りを「現場（フロア）」でする際は、名前を直接言わず他の入居者にわからないように配慮している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴や言葉・表現が十分にできないなどコミュニケーションがとりにくい方には、時間をかけても自分の思いを伝えてもらえるように支援している	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・食事・受診以外の日課は自由であるが、何をしたらいいのかわからない方もおられる。居室でテレビをみたり臥床される方もおられるが、ユニットの他の方とも一緒に過ごす機会を午前中には意識して声かけしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットは毎月行っている。以前はパーマ・毛染めなどに行かれていた方もおられたが、現在はおられない	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きなど進んでスタッフを手伝おうとされる方もおられるが、身体的に介護を要する方が多くなってきている。野菜の皮むきなど座ったままできることならばできる方もおられるので、手伝ってもらっている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量に応じて配膳を行っている。また本人の状態によっては嚥下のしやすい盛付、水分量などの調整をして提供している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい（歯みがき）を必ずしてもらっている。口臭の強い方は「舌苔」を毎週歯科医・歯科衛生士に取ってもらっている方もおられる	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	尿意のある人には日中3時間ごとのトイレ誘導を、失禁のある人にはおむつを使用しているが、上げ下ろしに介助はいるものの布パンツを利用されている方も多い。バルンを入れている方もおられるが、泌尿器科で除去に向けて取り組んでいる	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを理解し、併設診療所の指示を受け、水分摂取や緩下剤を用いている。長期にわたる場合は居室で洗腸等の処置を診療所看護師に受けている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	すべての希望に応じた入浴は行っていない。週3回の入浴を基本としている	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>体調や状況に応じて日中も居室のベッドで臥床している方もおられるが、水分摂取やおやつ、食事など時間を決めて離床してもらっている</p> <p>夜間不眠や不穏の方が多く、日中の臥床は様子を見て対応している</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>調剤薬局から提供を受けている薬剤情報を各利用者のカルテに綴り、いつでも最新の投薬内容・用量について把握している</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>要介護状態が進み、食事の用意・片付け・洗濯・掃除など役割を持っていただくことが少なくなっているが、洗濯物をたたんだり、野菜の皮むきなど座ってできることは何人かの方にはお手伝いいただいている</p>		
49	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>個々に応じた対応はできていないが、気候のいい時期は月1回程度はユニット毎の外出外食の機会を設けている</p> <p>またご家族の付添があれば外出は自由であり、服薬の調整をしている</p> <p>ただ長時間の座位保持が困難だったりバルン挿入など、外出が困難な方も増えてきている</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>物盗られ妄想の強い入居者がいるため、入居者の金銭管理は原則していないが、「老々介護」で家族の来所が困難と判断されたケースに限りお預かりをし、文書で報告している</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>要望があれば応じている</p> <p>電話の取次ぎは日常的に行っている</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>静かな環境を保ち、落ち着いた生活をおくっていただいている</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>十分なスペースはないが、ソファに座り集まって個々に談笑されている</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>私物の持ち込みは自由で、家族との写真や観葉植物、花鉢など、持ち込まれている</p> <p>また気に入った服や宝飾品などを持ち込み、毎日何回も着替えている方もおられる</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>段差もなく安全に移動ができるようにしている</p> <p>また洗剤などのある部屋・浴室は施錠して事故を防いでいる</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない